

# ViPlex Handy

メディアプレイヤー再生・コントロールソフトウェア

V3.2.0



ユーザーマニュアル

## 目次

目次.....	i
1 ソフトウェアのご案内.....	1
2 インストールの手順.....	2
3 デバイスへのログイン.....	3
3.1 ローカルデバイス.....	3
3.2 クラウドデバイス.....	6
4 スケジュールの管理.....	9
4.1 クラウドコンテンツライブラリ.....	9
4.2 スケジュールの作成.....	10
4.3 スケジュール配信.....	15
5 ローカルデバイス管理.....	16
5.1 スクリーン構成.....	16
5.2 マルチスクリーンスプライス.....	20
5.3 デバイスコントロール.....	22
6 登録情報.....	27
7 FAQ.....	28
7.1 ViPlex Handy のバージョンはどうしたら見られますか？.....	28
7.2 デバイスのソフトウェアのバージョンはどうしたら見られますか？.....	28
7.3 ローカルデバイスのソフトウェアのバージョンをアップグレードするにはどうしたらいいですか？.....	28
7.4 デバイスのバインドを実現するには？.....	32

# 1 ソフトウェアのご案内

ViPlex Handy は、マルチプレイヤーTaurus シリーズや JT100 交通向けメディアプレイヤーなど様々なデバイスを管理する Android 版並びに iOS 版対応の携帯端末用ディスプレイ管理ソフトウェアです。

ViPlex Handy の特徴は以下のとおりです。

- 親しみやすいインターフェースで、ユーザーフレンドリーな UI 設計。
- 操作が簡単で、デバイスにワイヤレスが可能、アクセスも容易。
- 複数のディスプレイで同一画面の再生が可能な同期再生に対応。
- スマート輝度調整によって、自動輝度調整とタイマー輝度調整が可能。
- WiFi AP と WiFi Sta モードの設定に対応したデュアル WiFi 機能を完備。
- 4G モジュールを持つデバイスのモバイルデータネットワークの設定に対応した 4G 接続が可能。
- 同期または同期していないのデュアルモードは、ビデオ出力モードに対応。
- 画面サイズに応じた再生をするアダプティブ再生が可能。

## 2 インストールの手順

### インストールパッケージのダウンロード

QR コードをスキャンし、Android と iOS 版のインストールファイルをダウンロードしてください。



### ソフトウェアのインストール

インストールファイルを実行し、画面のメッセージに沿ってインストールを行ってください。

XI'AN NOVASTAR TECH CO.,LTD

## 3 デバイスへのログイン

### 3.1 ローカルデバイス

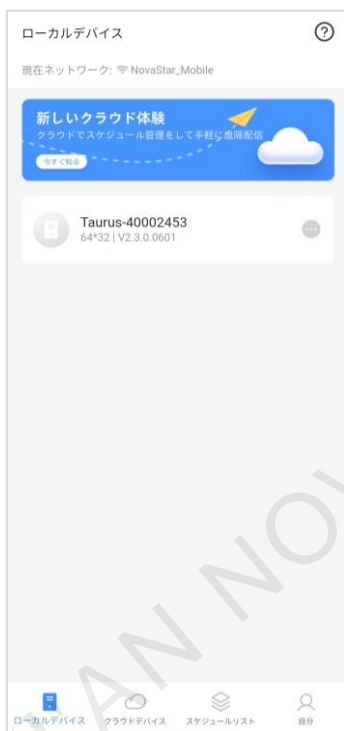
#### 操作場面

本章は Taurus を例に挙げ、ViPlex Handy によって WiFi AP に接続しデバイスに接続する方法についてご説明いたします。

#### 操作手順

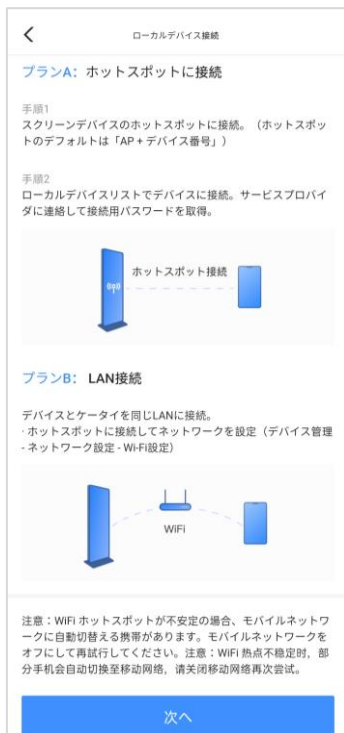
手順1 ViPlex Handy を開きます。

図3-1 デバイスリスト



手順2 右上にある②をタップし、画面のメッセージ通りに「次へ」をタップします。  
携帯電話の「WLAN」に入って画面に接続します。

図3-2 ローカルデバイス接続



手順3 Taurus 製品シリーズの WiFi AP に接続します。

初期 SSID は「AP+SN の後ろの数字 8 桁」、初期パスワードは「12345678」です。

図3-3 WiFi 接続



手順4 ViPlex Handy に戻ってデバイスリストを最新の情報に更新し、Taurus 状態に従って適切な操作を行ってください。

ViPlex Handy において Taurus が自動的に検出され、デバイスリストが最新の情報に更新されます。



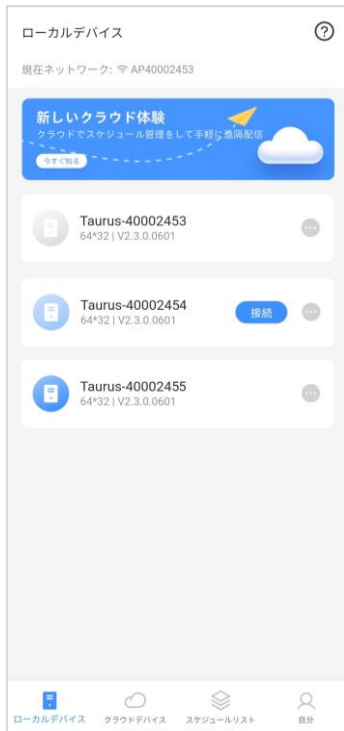
-  : Taurus がオフライン中、接続不可。
-  : Taurus がオンライン中、接続可。手順 5 に沿って実行してください。

図3-4 スクリーンリスト





手順5 スクリーン名の後ろにある「接続」をタップします。

手順6 「admin」ユーザーのパスワード（初期パスワード 123456）を入力し、「OK」をタップします。

接続完了後、が表示され、ViPlex Handy ではアカウント情報を自動保存します。

## 関連操作

- 接続完了後、パスワードが弱いとチェックされた場合は、画面にパスワードを変更するメッセージが表示されますが、以下の操作を行うことができます。
  - 「今回は無視する」をタップし、パスワードを変更しません。
  - 「パスワード変更」をタップし、順番にデバイスパスワードとホットスポットパスワードを変更します。
- Taurus がオンライン状態にある時は、をタップすると以下の操作を行うことができます。
  - 「バインド」：ローカルデバイスと VNNOX クラウドプラットフォームのクイックバインドを実現します。（デバイス接続が完了してから、当該機能が有効になる）
  - 「接続」：タップして Taurus に直接接続します。
  - 「パスワードをクリア」：自動保存されているデバイスの接続パスワードをクリアします。（デバイス接続が完了してから、当該機能が有効になる）
  - 「削除」：「ローカルデバイス」リストからこのデバイスを削除します。
- ユーザーは Taurus に接続後、をタップすると以下の操作を行うことができます。
  - 「コントロール」：「デバイス管理」画面に入り、詳細は [5 ローカルデバイス管理](#) をご覧ください。
  - 「バインド」：ローカルデバイスと VNNOX クラウドプラットフォームのクイックバインドを実現します。
  - 「切断」：接続済みからログアウトします。
  - 「名前を変更」：デバイス名を設定します。
  - 「削除」：「ローカルデバイス」リストからこのデバイスを削除します。

**注意：**

「ローカルデバイス」リストにあるデバイスは、オフライン・オンライン（デバイスの接続が完了したことがある）・接続済みの3つの状態では、「バインド」を行えます。

「バインド」時にまずモバイルネットワークをワイドエリアネットワークに切り替えてから、ウィザードに沿ってVNNOXクラウドプラットフォームに登録・ログインする必要があります。

## 3.2 クラウドデバイス

### 操作場面

ViPlex Handy によってクラウドデバイスを表示すると共にローカルデバイスのクイックバインドを実現することについて紹介します。

### 前提条件

携帯をワイドエリアネットワークに接続していること。

### 操作手順

手順1 ViPlex Handy を開きます。

手順2 「クラウドデバイス」をクイックします。

- VNNOXクラウドプラットフォームにログインしていない場合は、**手順3**に従って行ってください。
- VNNOXクラウドプラットフォームにログインしている場合は、**手順4**に従って行ってください。

図3-5 クラウドデバイス（未ログイン）



手順3 メッセージに従って、VNNOXクラウドにログインします。

携帯番号またはメールアドレスで登録・ログインを素早く行うのはもちろん、ユーザーとパスワードを入力して認証・ログインすることもできます。



図3-6 登録・ログイン



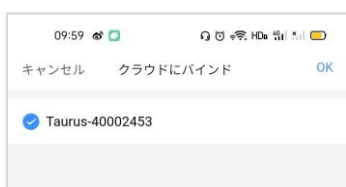
手順4 右上にある<sup>+</sup>をタップし、デバイスを選択します。

「クラウドにバインド」リストに接続が完了したことがあるローカルデバイスのみが含まれ、また、デバイスを複数選択することができます。

図3-7 VNNOX にログイン済み



図3-8 クラウドにバインド



手順5 「OK」をタップし、バインドを行います。

ローカルデバイスと VNNOX クラウドプラットフォームのクイックバインドを実現します。

手順6 クラウドデバイスを表示します。

- 「バインド済み」：クラウドにバインド済みのデバイス。
- 「バインド処理中」：「バインド」を行いましたが、クラウドのデバイスにバインドしていません。

トラブルシューティングは [7.4 デバイスのバインドを実現するには？](#) をご覧ください。

図3-9 クラウドデバイス (バインド済み)

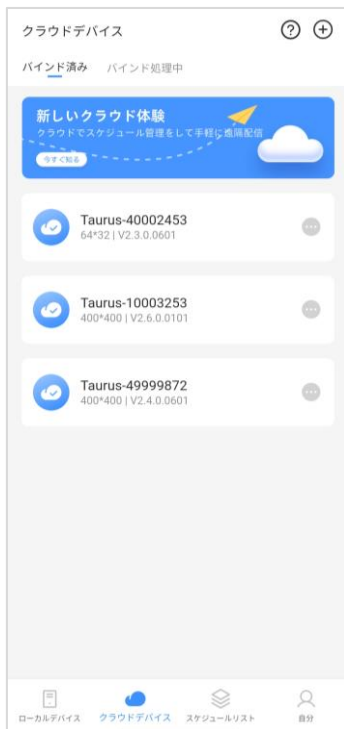
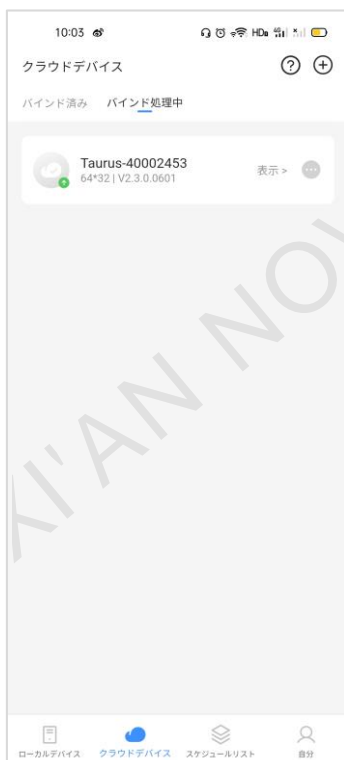


図3-10 クラウドデバイス (バインド処理中)



## 4 スケジュールの管理

### 4.1 クラウドコンテンツライブラリ

#### 操作場面

クラウドコンテンツライブラリの画像とビデオを表示、アップロード、削除します。そのうち、クラウドコンテンツライブラリというのは VNNOX Standard のコンテンツのことです。

#### 前提条件

- 携帯をワイドエリアネットワークに接続していること。
- ViPlex Handy は VNNOX クラウドプラットフォームにログインしていること。

#### 操作手順

- 手順1 「スケジュールリスト」画面において、右上にある「クラウドコンテンツ」をタップします。  
「クラウドコンテンツライブラリ」に入ります。

図4-1 スケジュールリスト



- 手順2 必要に応じて以下の操作を行います。



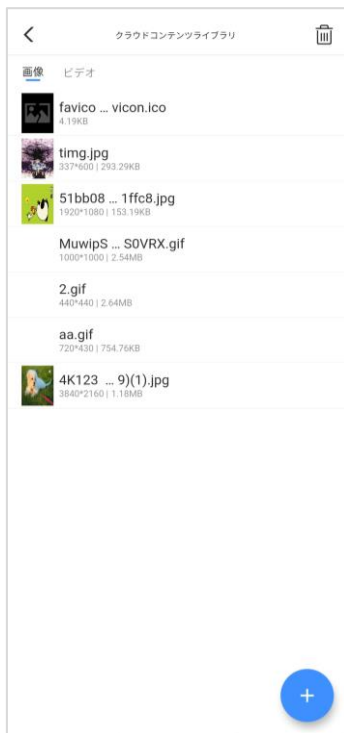
- クラウドコンテンツライブラリにある画像やビデオを表示します。
-  をタップし、ローカルの画像やビデオをクラウドコンテンツライブラリにアップロードします。
-  をタップし、クラウドコンテンツライブラリにある画像やビデオを削除します。

図4-2 クラウドコンテンツライブラリ



## 4.2 スケジュールの作成

### 注意事項

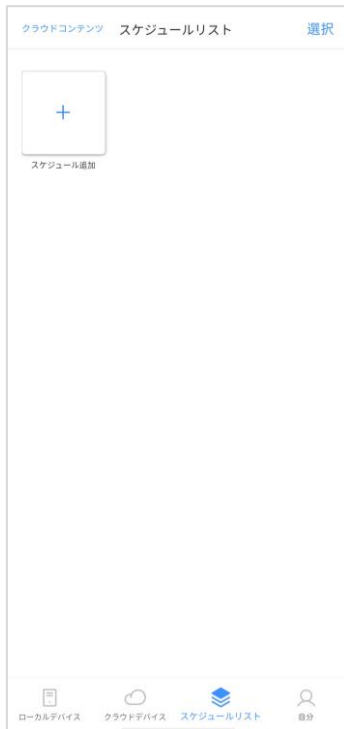
iOS 11.0 及びそれ以降のバージョンでスケジュールの編集や配信、再生を異常なく行うには、ユーザーは事前に以下の手順に従い設定する必要があります。

- 写真設定：「設定」 > 「写真」 > 「オリジナルファイルをダウンロード」して保存します。
- カメラ設定：「設定」 > 「カメラ」 > 「フォーマット」 > 「高互換性」。

### 操作手順

手順1 「スケジュールリスト」 ページにおいて、**+** をタップしてスケジュールを追加します。

図4-3 スケジュールリスト



- 手順2 スケジュール名と解像度を設定し、テンプレートを選択して「OK」をタップします。  
初期ウィンドウレイアウトかカスタムウィンドウレイアウトを使用できます。

図4-4 スケジュール追加



- 手順3 (任意選択) ウィンドウ設定をタップし、スケジュールのウィンドウレイアウトを調整します。

図4-5 スケジュール編集



図4-6 布スケジュールのレイアウト



手順4 スケジュールにあるウィンドウの任意の場所をタップします

図4-7に示すように、スケジュールにはウィンドウが二つある場合は、左側領域を編集したいなら、その領域の任意の場所をタップしてください。

図4-7 スケジュール編集



手順5 コンテンツ追加をタップしします。ViPlex Handy で対応できるコンテンツタイプは表4-1に示すようです。

表4-1 コンテンツタイプ

メニュー名	説明
クラウドコンテンツ	<p>4.1 クラウドコンテンツライブラリにある画像やビデオの追加に使用します。</p> <p><b>前提条件：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 携帯をワイドエリアネットワークに接続していること。</li> <li>• ViPlex Handy は VNNOX クラウドプラットフォームにログインしていること。</li> </ul>
画像	<p>画像の追加やその表示効果、再生時間、効果の設定に使用します。</p> <p><b>追加方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 撮影</li> </ul>

メニュー名	説明
クラウドコンテンツ	4.1 クラウドコンテンツライブラリにある画像やビデオの追加に使用します。 前提条件： <ul style="list-style-type: none"> <li>• 携帯をワイドエリアネットワークに接続していること。</li> <li>• ViPlex Handy は VNNOX クラウドプラットフォームにログインしていること。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 携帯のアルバムから選択</li> </ul> 対応形式： JPEG、BMP、GIF、PNG、WEBP
ビデオ	ビデオの追加やその再生効果の設定に使用します。 対応形式： MPEG-1/2、MPEG-4、H.264/AVC、MVC、Google VP8、H.263、VC-1、Motion JPEG
GIF	GIF 画像の追加に使用します。
テキスト	単一行テキスト、複数行テキストの追加やそのプロパティ、再生時間、効果の設定に使用します。
アナログ時計	アナログ時計の追加やそのスタイル、文字、再生時間の設定に使用します。
デジタル時計	デジタル時計の追加やそのスタイル、文字、再生時間の設定に使用します。
天気	天気パッケージの追加やそのスタイル、文字、再生時間の設定に使用します。

手順6 コンテンツプロパティを設定します。

コンテンツタイプごとにプロパティが異なります。例えば、[図 4-8](#) に示すのはアナログ時計のプロパティです。

図4-8 アナログ時計コンテンツのプロパティ



手順7 (任意選択) **+** をタップし、選択された領域でコンテンツの追加を続けます。


コンテンツを同時に複数追加することが可能です。コンテンツは先頭から順に再生され、ドラッグして再生順を変更することが出来ます。

手順 8 (任意選択) コンテンツアイコンの右上にある「**X**」をタップし、コンテンツを削除します。


手順 9 スケジュールには領域が複数含まれているか教えてください。

- はい。手順 4～手順 8 に沿って実行を繰り返し、スケジュールにある全領域の編集を行います。
- いいえ、手順 10 に沿って実行します。

手順 10 スケジュールを編集完了後、必要に応じて以下の操作を行います。

-  をタップし、スケジュールを保存します。

スケジュールに「クラウドコンテンツ」を追加した場合は、スケジュールを保存時にローカルへのダウンロードを同期します (ダウンロードしたものを除く。また、携帯をワイドエリアネットワークに接続することが必要)。

-  をタップし、デバイスを一つか複数選択して「配信開始」をタップします。

デバイスとは、接続済みのローカルデバイスのみをいいます。




## 4.3 スケジュール配信

### 前提条件

正しいローカルデバイスに接続していること。

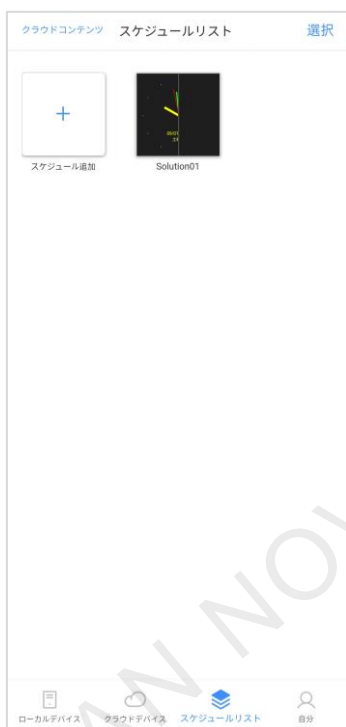
### 関連情報

スケジュール編集完了後、 をタップしてスケジュールを配信することが出来ます。詳細は [4.2 スケジュールの作成](#) を参照。

その他の場合においては以下操作を行ってスケジュールを配信することが出来ます。


### 操作手順

手順1 「スケジュールリスト」 ページで「選択」をタップします。



手順2 スケジュール配信にチェックを付けます。



手順3  をタップし、ローカルデバイスを一つか複数選択して「配信開始」をタップします。

ディスク領域は不足になった時、画面にユーザーのディスク領域不足の場合のメッセージが表示され、すべてのコンテンツのクリアを促します。クリアしないとスケジュール配信ができません。



## 5 ローカルデバイス管理

### 5.1 スクリーン構成

#### 操作場面

LED ディスプレイコントロールシステムの構築が完了後、マッピングを行うと共に受信カードの論理的な接続を行うことで、スクリーンの表示が可能となります。

#### 前提条件

- 正しいローカルデバイスに接続していること。
- 「構成モード」にある場合は、この機能を利用できます。

図 5-1 に示すように、「自分」ページから「モード選択」を「マッピングモード」に設定します。

図5-1 システム設定




#### 操作手順

- 手順1 「ローカルデバイス」リストで、デバイス名をタップします。
- 手順2 「デバイス管理」ページで、「スクリーン構成」を選択します。

図5-2 スクリーン構成

スクリーン構成▼			
現在リードバックに対応せず、NovaLCTで構成されるスクリーンパラメータを表示します			
受信カードサイズ	幅	64	PX
	高さ	32	PX
受信カード数	列	2	
	行	2	
総画素数	128PX * 64PX		
ポート数	2		
ポート 1			
受信カード数	列	2	
	行	1	
総画素数	128PX * 32PX		
座標オフセット X軸	0	Y軸	0

手順3  をタップします。

手順4 「受信カード設定」の段階では、受信カード1枚当たりローディングするサイズや受信カード列数・行数の設定を行い、「次へ」をタップします。

図5-3 に示すように、受信カードについて1枚当たりサイズ64 px x 32 px、2列・2行と分布しています。

図5-3 受信カード設定



手順5 「ポート数」の段階では、マルチメディアプレイヤーがローディングするディスプレイのポート数の設定を行い、「次へ」をタップします。

図5-4 ポート数



手順6 「ポート構成」の段階では、ポートごとにローディングする受信カード数や画面のオフセット量、受信カードのルーティング方法の設定を行います。

例えば、図 5-5 と図 5-6 に示すように、ポート 1 とポート 2 がそれぞれ受信カード 2 列 1 行をローディングしていますが、ポート 1 の場合は出力画面のオフセットがなく、ポート 2 の場合は出力画面の垂直オフセットが 32 px となっています。

図5-5 ポート 1 構成



図5-6 ポート2構成



手順7 「完了」をタップし、スクリーン構成を終了します。

## 5.2 マルチスクリーンプレイス

### 操作場面

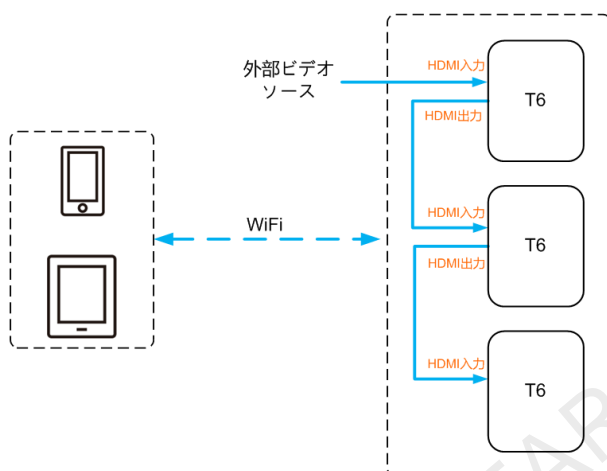
「マッピングモード」にある場合は、この機能を利用できます。

同じ仕様の複数のスクリーンをスムーズに貼り合わせるのに使用します。左から右の水平な貼り合わせのみ対応しています。

### 前提条件

- ハードウェア接続完了。図 5-7 に示すのは 3 台の T6 を貼り合わせて外部ビデオソースを使用する事例です。

図5-7 デバイス接続例



- 正しいローカルデバイスに接続していること。
- 「構成モード」にある場合は、この機能を利用できます。  
図 5-8 に示すように、「自分」ページから「モード選択」を「マッピングモード」に設定します。

図5-8 システム設定



## 操作手順


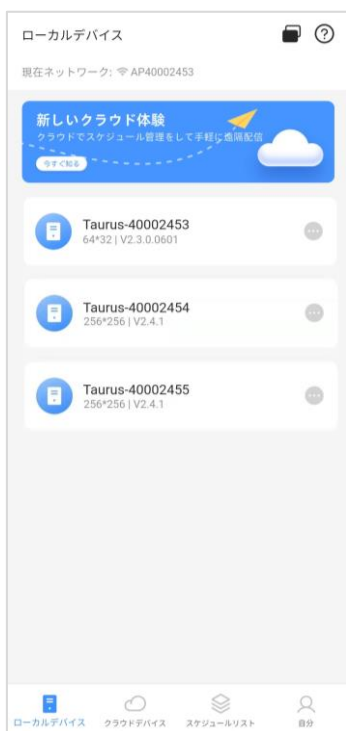
手順1 「ローカルデバイス」ページにおいて、右上にあるをタップします。

図5-9 ローカルデバイス




手順2 シングルローディングサイズを入力すると共に「検索」をタップし、スクリーンを検索します。

画面には、検索条件に一致したオンライン中のデバイスとspray順が設定されたオフライン中のデバイスが表示されます。

図5-10 マルチスクリーンspray




手順3 (任意選択) をタップし、spray順が設定されたすべてのデバイスに対してspray順に小さい方から大きい方へと並べていきます。

手順4 「spray」をタップし、「spray設定」画面に入ります。

図5-11 スプライス設定



- 手順5 スプライスのスクリーン数を設定します。  
スクリーン数は「ビデオソース幅 / 端末ローディング幅」で整数とする値以下にしてください。
- 手順6 スクリーンのスプライス順を設定します。
- 手順7 一番目のスクリーンのビデオソースは内部ソースかHDMIに設定します。
- 手順8 (任意選択)  をタップしてスクリーンの順序番号を削除します。「X位置」が「0」に自動設定されます。
- 手順9 「OK」をタップします。

## 5.3 デバイスコントロール

### 操作場面

デバイスに対してリアルタイムなコントロールやタイマーコントロール、時間同期の構成などを行うことができます。

### 前提条件

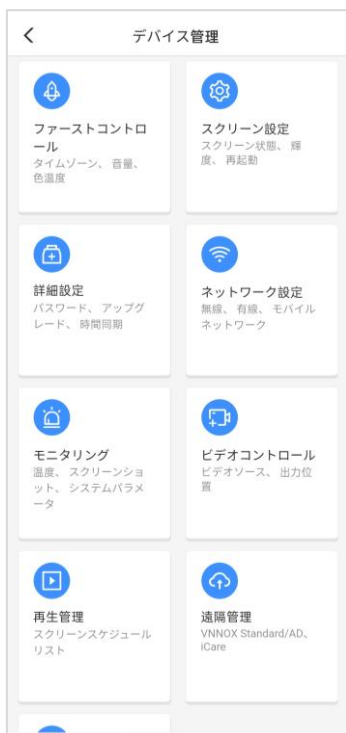
正しいローカルデバイスに接続していること。

### 操作手順

- 手順1 「ローカルデバイス」リストにおいて、デバイス名をタップし、[図 5-12](#) に示すように、「デバイス管理」の機能を設定する画面に入ります。  
機能モジュールをドラッグして並び替えを変更出来ます。



図5-12 デバイス管理



手順2 機能アイコンをタップして、機能を設定する画面に入ります。

機能モジュールは表 5-1 に示すようです。

表5-1 機能について

メニュー	サブメニュー	説明
ファーストコントロール	タイムゾーン	設置 UTC 時区。UTC タイムゾーンを設定します。
	時刻	タイムゾーンの時間を表示します。
	ボリューム調整	スライダをドラッグするかプラス・マイナスボタンを押し、音量を調整します。
	色温度	クールホワイトやピュアホワイト、ナチュラルホワイトなどディスプレイの再生画面の色温度を設定します。
スクリーン設定	スクリーン状態のコントロール	スクリーン状態とそのコントロールルールを手動設定します。
	輝度コントロール	輝度を手動調整し、スマート輝度の調整ルールを設定します。
	受信カード構成 (Android 版のみ対応)	拡張子が.rcfgx の受信カードのプロファイルをデバイスに送信するのに使用します。 ロード前に、環境設定ファイルを携帯電話に保存する必要があります。
	タイマー再起動	スクリーンのタイマー再起動ルールを設定します。
詳細設定	パスワード	ローカルデバイスの接続パスワードを変更します。 初期ユーザー名は「admin」、初期パスワードは「123456」です。初期パスワードの変更をお勧めします。
	アップグレード	ローカルデバイスソフトウェアとデバイスシステムをアップグレードします。ローカルデバイスソフト

メニュー	サブメニュー	説明
		<p>ウェアにはデバイスアプリケーションソフトウェアと FPGA プログラムが含まれます。詳細は <a href="#">7.3 ローカルデバイスのソフトウェアのバージョンをアップグレードするにはどうしたらいいですか?</a> を参照。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Android 版の場合は、最新アップグレードパッケージはクラウドからダウンロードしたり、携帯電話にあるソフトウェアから自動認識することができます。</li> <li>• iOS 版の場合は、最新アップグレードパッケージはクラウドからダウンロードするしか取得方法がありません。</li> </ul>
	時間同期	<p>デバイスの時間同期ルールの設定に使用します。</p> <p>デバイス同士の画面の同期再生を可能にするには、時間同期が不可欠です。</p>
	詳細機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「同期再生」：同期再生機能をオンまたはオフにします。オンにした場合、異なるデバイスが時間同期を行います。再生するスケジュールが同じであれば、複数のスクリーンの同期再生が可能です。</li> <li>• 「解像度」：デバイスの解像度を設定します。</li> <li>• 「再起動」：デバイスを再起動します。</li> <li>• 「コンテンツをすべてクリアする」：デバイスに保存したすべてのコンテンツをすべてクリアします。</li> <li>• 「工場出荷時の設定に戻す」：デバイスを出荷時の設定に戻します。</li> </ul>
ネットワーク設定	ワイヤレスネットワーク設定	<p>デバイスの WiFi AP の SSID とパスワード及びデバイスの WiFi Sta モードを設定します。</p> <p>外部ルーターを使用してデバイスに接続する場合は、WiFi Sta モードをオンにして、外部ルーターの WiFi ネットワーク名をタップして WiFi パスワードを入力してください。</p>
	ワイヤードネットワーク設定	<p>DHCP のオンまたはオフにします。</p> <p>LAN ケーブルを使用してデバイスに直接接続する場合は、DHCP をオフにして、静的 IP アドレスに関する情報を設定します。</p>
	モバイルデータ設定	<p>モバイルデータネットワークをオンまたはオフにします。</p> <p>デバイスに 4G モジュールがある場合は、モバイルデータでデバイスに接続する際に、モバイルネットワークをオンにしてください。画面に通信キャリアの情報が表示されます。</p>
モニタリング	環境輝度	<p>環境輝度を表示します。この機能を有効にするには、デバイスに光ファイバープローブデバイスを接続する必要があります。</p>
	温度	<p>受信カード温度を表示します。</p>
	再生スクリーンショット	<p>再生したい画面に対してスクリーンショットを行います。</p>
	システムパラメータ	<p>CPU 使用率、空きメモリ、外部ストレージを表示し</p>

メニュー	サブメニュー	説明
		ます。
	時間パラメータ	デバイスのタイムゾーンと時刻を表示します。
ビデオコントロール	-	ビデオ入力モード、ビデオソース、フルスクリーン スケーリング、アウトプットオフセット位置をコン トロールします。(Taurus のモデル T6/TB4/TB6/TB8 のみ対応) パラメータ「モード」値の意味は以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「マニュアル」：同期または同期していないモー ドを即座に切り替えます。</li> <li>「タイマー」：同期または同期していないモー ドを定期的に切り替えます。</li> <li>「HDMI 優先」：HDMI 端子を優先して同期モー ドでビデオを再生します。</li> </ul>
再生管理	-	デバイスで再生するスケジュールの開始、一時停 止、削除を行います。
遠隔管理	VNNOX Standard/AD	デバイスを VNNOX Standard/AD サービスにバイン ドします。
	iCare	デバイスを iCare サービスにバインドします。
スクリーン情報	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>ローカル名と登録アドレスを設定し、スクリー ンのシステムバージョン、FPGA バージョン、サブ ソフトウェアバージョンの情報を表示します。</li> <li>スクリーンの再生ログや実行ログ、4G 実行ログ を取得します。</li> </ul>

手順3 必要に応じて以下の操作を行います。

- 「スクリーン設定 > 輝度コントロール」：スマート輝度調整の設定を行うとき、「自動輝度調整」にする場合は、「自動輝度調整パラメータ」の設定が必要となります。そうすると、スクリーン輝度は設定された起動時間内に自動輝度調整パラメータ表によって自動調整されます。

図5-13 自動輝度調整ルール

11:19 100%  
キャンセル 追加 OK

調整モード 自動輝度調整 >

時刻 00:00:00 ▾

00	00	0
01	01	1
02	02	2

リピート方法 毎日 >

有効期限 2020-07-02~永続有効 >

図5-14 自動輝度調整表

Index	Lux	Unit	Percentage
01	2000	Lux	30.0 %
02	2300	Lux	35.0 %
03	2600	Lux	40.0 %
04	2900	Lux	45.0 %
05	3200	Lux	50.0 %
06	3500	Lux	55.0 %
07	3800	Lux	60.0 %
08	4100	Lux	65.0 %
09	4400	Lux	70.0 %
10	4700	Lux	75.0 %
11	5000	Lux	80.0 %

- 「詳細設定 > 時間同期」。必要に応じて時間同期方法を選択すると共に関連パラメータの構成を行い、「完了」をタップします。
  - NTP 時間同期：「NTP サーバー」を時間基準とし、カスタムサーバーの追加が可能です。

図5-15 NTP 時間同期

- 無線周波数の時間同期：グループ ID を設定し、現在デバイスをマスターデバイスにするかスレーブデバイスにします。マスターデバイスを NTP サーバーを経由して時間同期する場合は、自動時間同期を有効にし、NTP サーバーを設定します。

図5-16 無線周波数の時間同期

- 「遠隔管理」：図 5-17 と図 5-18 に示すように、VNNOX Standard/AD サービスと iCare サービスに接続し、構成を行うときは認証情報を入力する必要があります。


認証情報の表示：VNNOX ([www.vnnox.com](http://www.vnnox.com)) にログインし、クラウドプラットフォームのホーム「 > プレイヤー認証」を選択します。

図5-17 VNNOX Standard/AD へのバインド



図5-18 iCare へのバインド



## 6 登録情報

メニュー名	説明
ログイン・登録	VNNOX クラウドプラットフォームにログインします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>携帯番号またはメールアドレスで登録・ログインを素早く行います。</li> <li>ユーザーとパスワードを入力して認証・ログインします。</li> </ul>
ヘルプ	ソフトウェアのバージョン、著作権情報、メールアドレス、操作説明書の表示に使用し、また、「フィードバック」を送信することもできます。
言語	ソフトウェアの言語設定に使用します。
モード選択	ソフトウェアを使用するモードの設定に使用します。初期設定はユーザーモードです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「ユーザーモード」：主に一般ユーザーに使用します。</li> <li>「マッピングモード」：主にテクニカルサポートエンジニアに使用します。ユーザーモードと比較して「スクリーン構成」と「マルチスクリーンスプライス」が追加され、適切な専門知識や経験が求められます。</li> </ul>
デモモード	デモモードをオン・オフするのに使います。 デモモードをオンにするときは、ユーザーはデバイスに接続しなくてもすべての機能を利用できます。

## 7 FAQ

### 7.1 ViPlex Handy のバージョンはどうしたら見られますか？

手順1 「自分」>「ヘルプ」を選択します。

手順2 ViPlex Handy ソフトウェアのバージョンを確認します。

### 7.2 デバイスのソフトウェアのバージョンはどうしたら見られますか？

手順1 ローカルデバイスに接続します。

詳細は [3.1 ローカルデバイス](#) を参照。

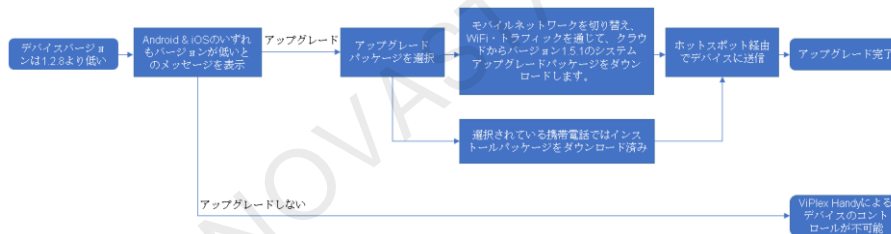
手順2 「ローカルデバイス」リストにおいて、デバイス名をタップし、「デバイス管理」画面に入ります。

手順3 「デバイス情報」を選択します。

手順4 デバイスのソフトウェアバージョン情報及びサブソフトウェアバージョン情報を確認します。

### 7.3 ローカルデバイスのソフトウェアのバージョンをアップグレードするにはどうしたらいいですか？

#### アップグレードポリシー



- デバイスバージョン<V1.2.8 の場合は、ViPlex Handy を開くと画面でバージョンが低いとのメッセージが表示され、アップグレードページに移動するよう誘導します。ViPlex Handy を使い続けるには、アップグレードしてください。
- デバイスバージョン≥V1.2.8 の場合は、必要に応じてデバイスバージョンをアップグレードすることが出来ます。

#### 操作手順 (デバイスバージョン<V1.2.8)

手順1 ViPlex Handy を開き、デバイスに接続します。

詳細は [3.1 ローカルデバイス](#) を参照。

図7-1 画面メッセージ



手順2 ダイアログボックスの「アップグレード」をタップし、「アップグレード」画面に入ります。

- Android 版の場合は、アップグレードパッケージはクラウドからダウンロードしたり、携帯電話にあるソフトウェアから自動認識することができます。  
アップグレード前に、ソフトウェアのアップグレードパッケージを携帯電話のローカルに入れば、ViPlex Handy がソフトウェアアップグレードパッケージを自動認識し、「アップグレード」画面を表示します。この場合は、「アップグレード」をタップします。
- iOS 版の場合は、アップグレードパッケージはクラウドからダウンロードするしか取得方法がありません。

図7-2 アップグレード画面



- 手順3 モバイルネットワークを切り替え、常にワイドエリアネットワークに接続しているように確保して「最新の情報に更新」をタップし、クラウドからバージョン V1.5.1 のアップグレードパッケージを取得します。

図7-3 ワイドエリアネットワーク経由でアップグレードパッケージを取得



- 手順4 アップグレードパッケージの後ろにある「ダウンロード」をタップし、トラフィックに関するメッセージボックスで「ダウンロード再開」をタップします。

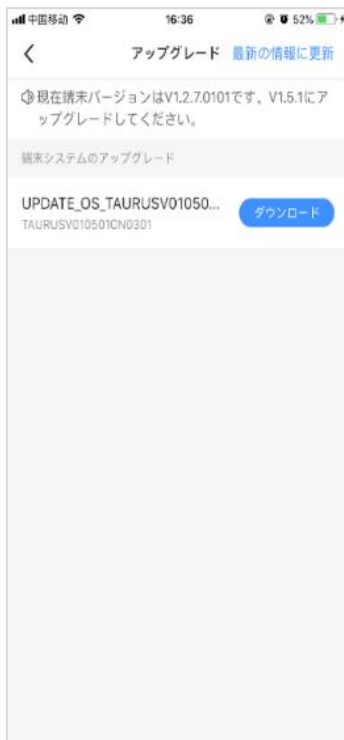
図7-4 トラフィックに関するメッセージ



ダウンロード完了後、「ダウンロード」ボタンが「アップデート」ボタンになります。



図7-5 ダウンロードタスク完了



手順5 携帯電話はデバイスの WiFi AP に再接続します。

図7-6 デバイス WiFi AP



手順6 アップグレードパッケージの右側にある「アップグレード」をタップします。  
しばらくすると、デバイスバージョンは V1.5.1 にアップグレードします。

図7-7 アップグレード完了



## 操作手順 (デバイスバージョン≥V1.2.8)

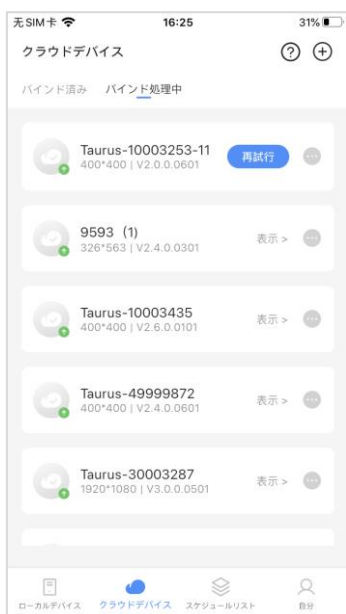
- 手順1 ViPlex Handy を開き、ローカルデバイスに接続します。
- 手順2 デバイス名をタップし、「デバイス管理」画面には入ります。
- 手順3 「詳細設定 > アップグレード」を選択します。
  - Android 版の場合は、アップグレードパッケージはクラウドからダウンロードしたり、携帯電話にあるソフトウェアから自動認識することができます。  
アップグレード前に、ソフトウェアのアップグレードパッケージを携帯電話のローカルに入れれば、ViPlex Handy がソフトウェアアップグレードパッケージを自動認識し、「アップグレード」画面を表示します。この場合は、「アップグレード」をタップします。
  - iOS 版の場合は、アップグレードパッケージはクラウドからダウンロードするしか取得方法がありません。
- 手順4 クラウドから最新バージョンのアップグレードパッケージを取得するために、モバイルネットワークを切り替え、常にワイドエリアネットワークに接続しているように確保します。
- 手順5 アップグレードパッケージの後ろにある「ダウンロード」をタップし、トラフィックに関するメッセージボックスで「ダウンロード再開」をタップします。  
ダウンロード完了後、「ダウンロード」ボタンが「アップグレード」ボタンになります。
- 手順6 携帯電話はデバイスの WiFi AP に再接続します。  
アップグレードパッケージの右側にある「アップグレード」をタップします。

## 7.4 デバイスのバインドを実現するには？

### 問題説明

デバイスは「バインド」を行った後もクラウドにバインドせず、まだ「バインド処理中」の状態にあります。図 7-8 に示すようです。

図7-8 バインド処理中



## 原因分析

- デバイスをワイドエリアネットワークに接続していません。
- デバイスと携帯は同じ LAN ではありません。(デバイスシステムバージョン<V2.3.0 の場合のみこれが要求される)
- デバイスはクラウドにバインドされています。

## 対処法

場面 1 : デバイスシステムバージョン<V2.3.0 の場合に「バインド処理中」に「再試行」ボタンが表示されます。

注意 :

方法 A : 7.3 ローカルデバイスのソフトウェアのバージョンをアップグレードするにはどうしたらいいですか? に述べるように、デバイスシステムを最新バージョンにアップグレードしてから、再試行します。

方法 B : 手順 1~手順 2 をご覧ください。

手順 1 デバイスはワイドエリアネットワークに接続しているかどうかチェックします。

- はい。手順 2 に沿って行います。
- いいえ。デバイスをワイドエリアネットワークに接続してから「再試行」をタップし、デバイスをワイドエリアネットワークに接続後、「再試行」をタップして、バインドが完了したかももう一度確認します。
  - はい。操作が完了します。
  - いいえ。手順 2 に沿って行います。

手順 2 デバイスは携帯と同じ LAN にあるかどうかチェックします。

- はい。「再試行」をタップします。
- いいえ。デバイスを携帯と同じなワイドエリアネットワークに接続後、「再試行」をタップします。

場面 2 : デバイスシステムバージョン≥V2.3.0 の場合に「バインド処理中」に「表示」ボタンが表示されます。

手順 1 「表示」をタップします。



手順2 メッセージに沿って、デバイスをワイドエリアネットワークに接続します。

**場面3:** 「バインド処理中」リストの状態は「バインド失敗」になっています。

手順1 デバイスはクラウドにバインドしているかどうかチェックします。

- はい。操作が完了します。
- いいえ。手順2に沿って行います。

手順2 「バインド処理中」リストからこのデバイスを削除します。

手順3 もう一度バインドを行います。

バインドは [3.1 ローカルデバイス](#) と [3.2 クラウドデバイス](#) の章節に記載する手順をご覧ください。

著作権は © 2021 Xi'an NovaStar Tech Co., Ltd. が所有しています。無断複写または転載を禁じます。  
当社の書面による許可なしに、この文書の内容の一部またはすべてをコピー並びに複製することを禁止します。また、いかなる形式でも送信することを禁止します。

#### ブランドステートメント

**NOVA STAR** はNovaStarの登録商標です。

#### ステートメント

Xi'an NovaStar Tech Co., Ltd.の製品をご利用いただき誠にありがとうございます。この文書が、お客様の製品の理解と使用の助力となり便利になることを期待しております。文書の作成において正確かつ信頼できるものであるよう努めておりますが、予告無く変更になる場合があります。何卒ご了承ください。ご利用中にご意見またはご質問等がありましたら、記載した連絡先までご連絡ください。当社がご利用中にあったご不明な点について対応し、ご意見については謝意を表すとともに早期に評価の上採用させていただきます。

公式サイト  
[www.novastar.tech](http://www.novastar.tech)

技術サポート  
[support@novastar.tech](mailto:support@novastar.tech)